第15回葉山まちづくり展特別企画

山梨 崇仁 _{葉山町長} 清野 由美 ジャーナリスト 猪俣 博史 _{写真家} 柳瀬 博一 _{日経ビジネス企画プロデュー}

日 時:2015年7月5日(日)14時〜16時 場 所:福祉文化会館 大ホールホワイエ 入場料:無料

ライフス、町長と葉山の話

タ H

10

とヨ

ッソ

と

1 1

「先端のライフスタイルがある」「富士山が、オリンピックが見える」 消滅可能都市が言われ、日本全国の市町村が生き残りをかける中、 これからの葉山はどうあるべきなのか。私たちは何をしなければならないのか。 外からの視点、魅力の再発見。いまこそ私たちの葉山を考えてみよう。

町長と葉山の話 TALK SHOW 葉山まちづくり展特別企画 ライフスタイルとヨットと葉山

TALK SHOW * TIME SCHEDULE

14:00~14:40 外から見た葉山の魅力と再発見 清野由美氏・猪俣博史氏&質疑応答 東京都心の便利な生活がありながら、一方の葉山は鉄道がない、せまい道路、買物も仕事も町外へ。横須賀とも違う、 葉山に住む魅力と住む人にとっても再発見。現代の先端のライフスタイルをご提案します。

14:40~15:10 ヨットと葉山 山梨崇仁町長&質疑応答

御用邸の町、葉山。葉山らしさを語る町民がいることが最も葉山らしい。その葉山の沖にオリンピックがやってくる。ヨット発祥の 地としての葉山の魅力をヨットと海を通じてご案内します。

15:10~15:30 葉山の持続可能性 柳瀬博一氏&質疑応答

消滅可能性都市を学び、これからの葉山が目指す方向性は。人口減少局面で、今後の葉山をどのような「まち」としていくべきか? 葉山の価値を大切に守り将来につなげることを持ち続ければ、葉山は消滅しない。

15:30~16:00 来場者の皆さんとの意見交換

清野 由美 yumi kiyono ジャーナリスト

猪俣博史 hiroshi inomata _{写真家}



1960年東京都生まれ。東京女子大学卒。英 国留学、出版社勤務を経て、91年にフリー。 先端を行く各界の人物インタビューとと もに、時代の価値観や感覚、ライフスタイ ルの変化をとらえる記事を「AERA」「朝日 新聞「日経ビジネスオンライン」などに執 筆。著書に『新・都市論 TOKYO』『新・ムラ論 TOKYO』(隈研吾と共著・集英社新書)、『ほ んものの日本人』(日経BP社)など。

柳瀬博一 hiroichi yanase 日経ビジネス企画プロデューサー NPO法人小網代野外活動調整会議理事

1964年生まれ。1985年、慶應義塾大学経済学 部2年生のとき岸由二教授と出会い、三浦半 島小網代の自然を保全する活動をスタート。 2008年まで書籍編集者として、「小倉昌男 経 営学」「矢沢永吉 アー・ユー・ハッピー?」「養 老孟司 デジタル昆虫図鑑」など、数々のヒッ

ト作を生み出す。TBSラジオ「柳瀬博一・Terminal」メインパーソナリティ、 「文化系トークラジオ Life」サブパーソナリティとしても活躍。

山梨崇仁 takahito yamanashi 葉山町長



1968年横須賀市生まれ。慶応義塾大学在学 中に放送作家として「ねるとん紅鯨団」な どの番組制作に参加。卒業後、カナダを拠 点に世界各地を放浪。帰国後、レコード会社、 広告制作会社勤務などを経て99年にフリー。 フォトグラファー&ライターとして、フィ ッシング系ムック制作などに参加。朝日新 聞デジタル&Wの連載「葉山から、はじまる。」 「鎌倉から、ものがたり。」で撮影を担当。秋 谷在住、葉山町一色に仕事場を構える。

写真家 猪俣 博史 葉山の写真展 同時開催



1977年生まれ。関東学院大学卒業。法政大 学大学院修了、政治学修士。2000年、ウィ ンドサーフィン全日本学生選手権で優勝。 その後2003年のオリンピック最終選考ま でアテネオリンピックを目指して活動。 サラリーマン生活を経て30歳のときに葉 山町議選に出馬し、トップ当選。2012年1 月葉山町長就任。県内初の無料戸別収集 を導入するなど、葉山町らしさを活かし たまちづくりの可能性を追求している。

清野由美の著書「住む場所を選べば、生き方が変わる」で紹介されたお店が登場します。



主催:葉山町 問合せ:葉山町政策財政部政策課 TEL:046-876-1111